

12 内積

すでに平面や空間のベクトルについては内積が定義されているが，一般的な（実）ベクトル空間で内積を定義する．内積が定義できるとベクトルの「長さ」が内積を使って定義できる．

12.1 内積

定義 12.1 V を（実）ベクトル空間とする． V の任意の 2 元 u, v に対して実数 (u, v) を対応させる対応 $(,)$ が次の条件を満たすとき $(,)$ は V の内積という．内積が定義されているベクトル空間は内積空間と呼ばれる．

$$(1) (u + u', v) = (u, v) + (u', v)$$

$$(2) (cu, v) = c(u, v), \text{ ただし } c \in \mathbb{R}.$$

これから $(0, u) = 0$ が任意の V のベクトル u に対して成り立つ．
なぜなら，

$$(0, u) = (0u, u) = 0(u, u) = 0$$

だから．

$$(3) (v, u) = (u, v).$$

$$(4) u \neq 0 \text{ のとき } (u, u) > 0.$$

例 12.1 (教科書 p.112, 例 1, 例題 6.1.1)

$V = \mathbb{R}^n$ のベクトル

$$\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ \vdots \\ a_n \end{pmatrix}, \quad \mathbf{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ \vdots \\ b_n \end{pmatrix}$$

に対して

$$(\mathbf{a}, \mathbf{b}) = a_1 b_1 + a_2 b_2 + \cdots + a_n b_n = \sum_{i=1}^n a_i b_i$$

は $V = \mathbb{R}^n$ の内積になっている．これを \mathbb{R}^n の標準内積と呼ぶ．実際，上の (1) ~ (4) の性質を確かめてみよう．

$$\mathbf{u} = \begin{pmatrix} u_1 \\ u_2 \\ \vdots \\ u_n \end{pmatrix}, \mathbf{u}' = \begin{pmatrix} u'_1 \\ u'_2 \\ \vdots \\ u'_n \end{pmatrix}, \mathbf{v} = \begin{pmatrix} v_1 \\ v_2 \\ \vdots \\ v_n \end{pmatrix} \quad \text{と書くことにする.}$$

(1)

$$\begin{aligned} (\mathbf{u} + \mathbf{u}', \mathbf{v}) &= (u_1 + u'_1)v_1 + \cdots + (u_n + u'_n)v_n \\ &= u_1v_1 + \cdots + u_nv_n + u'_1v_1 + \cdots + u'_nv_n \\ &= (\mathbf{u}, \mathbf{v}) + (\mathbf{u}', \mathbf{v}). \end{aligned}$$

$$(2) (c\mathbf{u}, \mathbf{v}) = (cu_1)v_1 + \cdots + (cu_n)v_n = c(u_1v_1 + \cdots + u_nv_n) = c(\mathbf{u}, \mathbf{v}).$$

$$(3) (\mathbf{v}, \mathbf{u}) = v_1u_1 + \cdots + v_nu_n = u_1v_1 + \cdots + u_nv_n = (\mathbf{u}, \mathbf{v}).$$

$$(4) (\mathbf{u}, \mathbf{u}) = u_1^2 + \cdots + u_n^2 \geq 0 \text{ なので, } (\mathbf{u}, \mathbf{u}) = 0 \text{ ならば } u_1 = \cdots = u_n = 0 \text{ となり, } \mathbf{u} = \mathbf{0} \text{ でないといけな}\text{い. よって } \mathbf{u} \neq \mathbf{0} \text{ ならば } (\mathbf{u}, \mathbf{u}) > 0.$$

12.2 ベクトルのノルム

ベクトル空間 V に内積 (\cdot, \cdot) が定義されているとき， $\mathbf{u} \in V$ に対して $(\mathbf{u}, \mathbf{u}) \geq 0$ だから

$$\|\mathbf{u}\| := \sqrt{(\mathbf{u}, \mathbf{u})}$$

を \mathbf{u} のノルム または 長さ と呼ぶ．

定理 12.1 (教科書 p.114, 定理 6.1.1)

内積空間のノルム $\|\cdot\|$ について次が成立．

$$(1) \|c\mathbf{u}\| = |c| \|\mathbf{u}\|.$$

(2) $\mathbf{u}, \mathbf{v} \in V$ のとき，シュワルツの不等式：

$$|(\mathbf{u}, \mathbf{v})| \leq \|\mathbf{u}\| \|\mathbf{v}\|$$

が成り立つ．

(3) $u, v \in V$ のとき , 三角不等式 :

$$\|u + v\| \leq \|u\| + \|v\|$$

が成り立つ .

証明 (1)

$$(cu, cu) = c(u, cu) = c(cu, u) = c^2(u, u)$$

なので , 両辺の平方根をとれば $\|cu\| = |c| \|u\|$.

(2) u または v が 0 に等しければ , $(u, v) = 0 = (u, u)(v, v)$ なので , シュワルツの不等式は成り立っている . したがって $u, v \neq 0$ のときに示せば良い . $c \in \mathbb{R}$ のとき

$$0 \leq (u + cv, u + cv) = (u, u) + 2c(u, v) + c^2(v, v)$$

右辺は最高次の係数が正の c の 2 次式なので , これが c に関係なく成り立っていることより , 判別式は

$$(u, v)^2 \leq (u, u)(v, v)$$

となる . 両辺の平方根をとればシュワルツの不等式が得られる .

(3)

$$\|u + v\|^2 = (u, u) + 2(u, v) + (v, v)^2 = \|u\|^2 + 2(u, v) + \|v\|^2$$

で , シュワルツの不等式より

$$(u, v) \leq \|u\| \|v\|$$

なので , 上式右辺は $(\|u\| + \|v\|)^2$ 以下 . 平方根をとって結論を得る .

□

12.3 ベクトルの直交

定義 12.2 内積空間 V の二つのベクトル u, v が直交するとは

$$(u, v) = 0$$

となることを言う .

直交を使うと新しい 1 次独立性の判定方法が得られる .

定理 12.2 (教科書 p.114, 定理 6.1.2)

内積空間 V の , 零ベクトルでないベクトル u_1, \dots, u_r が互いに直交するならばこれらは 1 次独立である .

証明

$$c_1 u_1 + \dots + c_r u_r = \mathbf{0}$$

とする . このとき , 勝手な $1 \leq j \leq r$ をとって u_j と上の式の内積をとると直交性より

$$c_j(u_j, u_j) = 0$$

を得る . $u_j \neq \mathbf{0}$ なので , これは $c_j = 0$ を意味 . j は勝手に選んだので , これは u_1, \dots, u_r が 1 次独立であることを示している . \square

練習 12.1 \mathbb{R}^3 のベクトル

$$\begin{pmatrix} 1 \\ a \\ -1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 \\ -2 \\ a \end{pmatrix}$$

が (\mathbb{R}^3 の標準内積で) 直交するように a を求めよ .